2025/8/30　いわき市非核平和都市宣言40周年記念事業　特別講演会関係資料

（この資料は、当日、学生・生徒が発表した資料・内容を事務局（いわき市役所総務課）が抜すい・整理したものです）

中学生による長崎派遣発表

私たちがこの長崎派遣団に参加したのは、遠く離れた長崎についてや戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを知って、知識を深めたいと思ったからです。
そして、「平和とは何か？」という疑問に対し、多くの人たちとの交流を通して、私たちらしい答えに辿り着きたいという想いがあったからです。
私たち長崎派遣団は30名です。それに比べ日本の人口は約1億2355万人です。
1億2355万分の30という微力ではありますが、学んだことを精一杯発表します

小江原中学校の平和記念集会に参加しました。
「皆さんは10 年後の今日、何をしている姿を思い浮かべますか？」小江原中学校の校長先生にそう問われました。
私たちは、社会人となり働いている自分の姿や、幸せな家庭を築いている姿を思い浮かべました。
しかし、小江原中学校の生徒はこの問いに対し「11時02分どこにいても、なにをしていても、長崎に向かって黙とうをする。」
そして周りの人に「何をしているの？」と尋ねられた時、長崎で起こったことを教えている姿を思い浮かべたそうです。
私たちは、長崎で起こった出来事を歴史のひとコマのように他人事としてとらえていました。一方で長崎の中学生は、自分の事として受け止めていることを知り、その差を感じました。
そのため、長崎の中学生の想いを身近な人に伝えていく役割があると思いました。
また「長崎の人たちにとって8 月9 日は、特別な一日」だという話を聞き、私たちにとっては何気ない日々が誰かにとってのかけがえのない日、だということに気が付きました。
また、私たちはこの平和記念集会のなかで聞いた「ビリョクだけど、ムリョクじゃない」という言葉が全員の心に残りました。

・身近な「平和」は「差別しない」こと

・「平和」は当たり前ではなく、「努力で築かれる」もの

これは「自分たちにできる、小さな行動を続けること」だと私たちは考えました。
その小さな行動とは差別をしないこと、発信すること、関心を持つこと、話し合うことなどたくさんあると思います。だから、私たちはこのようなことから始めていきたいです。
私たちは決して大きな力を持っているわけではないけれど、この小さな力が平和につながっていく、第一歩になると信じてこの先も、「自分たちにできる小さな行動を続ける」という考え方を次世代の方に発信していきます。

この平和記念集会を通して、原爆が落とされた当時の被爆者の方の生活や、周りの風景が原爆の直後でどんな風にかわったかをお聞きすることができ、原爆の悲惨さをより知ることができました。
また、「ビリョクだけどむりょくじゃない」という言葉以外に「身近な平和は差別しないこと」や「平和は当たり前ではなく、努力で作るもの」ということを言葉大切にしていきます。

長崎平和推進協会が主催している、青少年ピースフォーラムに参加しました。
最初に、実際に長崎で被爆された三瀬さんの講話を聞いてきました。講話では、「明日の朝まで生きていられるだろうか」という不安や恐怖を抱えながら生活していたこと、原爆投下後、三瀬さんが実際に見た悲惨な光景などをお聞きしました。私たちは三瀬さんの話を聞いて、戦争の恐ろしさを痛感しました。
次に、爆心地付近を散策しました。そこで私たちは、お茶碗などの生活用品が埋もれている地層を見ました。そこから、普通の生活が一瞬にして失われたことに衝撃を受け、原子爆弾の影響力に言葉を失いました。
最後に、いくつかの戦時中の疑似体験をしました。一つは、自分の大事なものや人を紙に書いて戦争や原爆で徐々に大切なもの、人が失われていく当時の状況の体験。もう一つは、戦時中の学校で実際に行なわれていた爆弾から身を守る姿勢の体験です。
私たちはこの疑似体験を通して、当たり前の日常や大切なものを失っていくことの怖さを感じました。
なので、これからは当たり前に送っているこの毎日をさらに大切にしていきたいです。
私たちはこの青少年ピースフォーラムを通して、当たり前の生活が一番の平和だと改めて思いました。今、被爆者の平均年齢は八十歳を超え、被爆された方がいない世界が近づいてきています。なので、今の時代を生きる私たちで過去に起こった出来事と被爆者の方達の思いを未来に繋いでいきたいです。三瀬さんのお話の中にあった「平和は人類共通の世界遺産です」という言葉は、過去にきずかれた平和はこれからも残し続けなければならないものだ。という意味だと私たちは考えました。
皆さんはこの言葉をどのように受けとめますか？

平和は人類共通の世界遺産

リーダー交流会では、長崎市の中学生とともに平和をつくるために自分たちにできることを考えました。そこで、長崎大学核廃絶研究センターの中村准教授の話を聞き、長崎市の中学生と意見を交換し合いました。
現在、世界ではアメリカ、ロシア、中国などをはじめとした9か国が核兵器を保有しています。いつでも使える核弾頭が推定9615発あり、性能も80年前より格段にあがっており、兵器の種類も増えていることを知りました。

9615

核兵器が
存在する世界

核兵器が
存在しない世界

この中の核兵器が一発でも使われたとき、核戦争に発展する恐れがあります。核戦争に発展しなくても多くの尊い命が犠牲になる可能性もあります。このことを知って核兵器を使った戦争が起こるかわからないという事実に恐怖を覚えました。
中村准教授から核兵器はなぜなくならないのか、核兵器をなくすためになにができるのかという問いかけを受けました。その問いに対して私たちは、大量の核兵器を捨てる場所がない、相手の国のことを信用していないからなどの意見がでました。
また、「核兵器の恐ろしさを知らないから」という意見と「核兵器の恐ろしさを知っているからこそもっていたい」という意見もでました。この二つの意見から、核兵器の被害にあった人の思いにもっと耳をかたむけるべきだと感じました。

核兵器をなくすためには、相手の思いを大切にすること、世界にむけて核の恐ろしさを発信していくこと、原爆の恐ろしさを体験していない人に繋いでいくことが大切だと考えました。
核兵器が存在する世界、存在しない世界、どちらもありえる未来で、私たちの行動や選択次第では核兵器の存在しない世界をつくれると思います。
どの国も守り方が違うだけで自国を守るという目的は同じはずです。しかし、核兵器を持つ以外に守る方法はないのでしょうか。
だから私たちはこれからも核兵器について知り、考え、次世代に伝えていく必要があると思います。

皆さんは核兵器のない世界は実現できると思いますか？

その問いにどう答えるかが、今を生きる私たちに問われています。
私たちは、長崎派遣で様々な経験を通し多くの学びを得られました。多くの学びのおかげで、平和に対する考えや価値観が広がりました。
また、長崎派遣で学んだ原爆や平和について知って終わりではなく、学びを未来に繋げたいと思うようになりました。
私たちは、平和記念集会の中で、高校生平和大使という団体を知りました。

この団体は、「微力だけど無力じゃない」というスローガンをもとに世界各地で核兵器廃絶と平和の世界の実現を訴え、国内外に向け発信しています。
長崎に行ってからは、今までの生活の全てがあたり前のことではないと実感しました。
長崎派遣で経験したことをそのまま終わらせるのではなく、次は、私たちが未来に語り継いでいく番です。
先ほども言った通り、私たちが語り継いでいくことは「ビリョク」ですが「ムリョク」ではありません。
私たちは30名という微力ではありますが、皆さんの心に残るような発表は出来たでしょうか。
私たちは、今日のこの活動だけでなく、様々な人に伝え続けることをやめません。
皆さんも今日のこの時間を誰かに伝えていただけると本当に幸いです。
一人一人の小さな力が集まり、やがて大きな力になると私たちは、信じています。

私たちは伝え続けることをやめません